

繪本三國妖婦傳

下編

五

へ 13  
2892  
15 七





へ 13  
2892  
巻 15

繪本三國妖婦傳下偏卷之八

目録

悪執石火あくしやくいへんと云ふ妖婦きとうぢやうせき半信殺生石城教化毒に遇あ

左府頼長公安倍泰親城さふりやうりやうあんのやすちゆうるる圖あ

泰親石魂城やせちゆうせきこん法しゆり帰洛の圖きりやく

禽獸殺生石の毒に敵死る圖きんどうせりやうせき ぐく とをる

三國妖婦傳下偏目録

昭和  
九月  
十日  
購求



殺生石教化の僧侶毒に中る圖

玄公和尚殺生石化度回言及玉原神社法座

玄翁和尚深倉殿に見糸の圖

玄翁石魂化度する圖

玄化國言田の在玉原大控現糸統の圖

繪本三國女婦傳下編卷之五

惡狐石下變災ふ及女貴僧殺生石を教化毒不遇

保延七年酉年永治元と改る高三月十日先帝多羽上白皇後崩  
を崩し終ひ此法諱を空覺と稱しなる同年十二月七日當今

崇徳院即位代太子躰仁親王小ゆり多(此在位十八年)ゆて

仙洞所に遷幸すりくる是を新院と稱し方子法郎位

あつて翌年改康治元とい人五七十六代迎衛院とすなる

是なり密と多羽法皇弟八の皇子少て此母ハ贈大后長実

公の息女也名を得子後皇福院とす高今の康治元より

天養久安仁平と終て久壽二乙未年にあつて十三年小乃小物

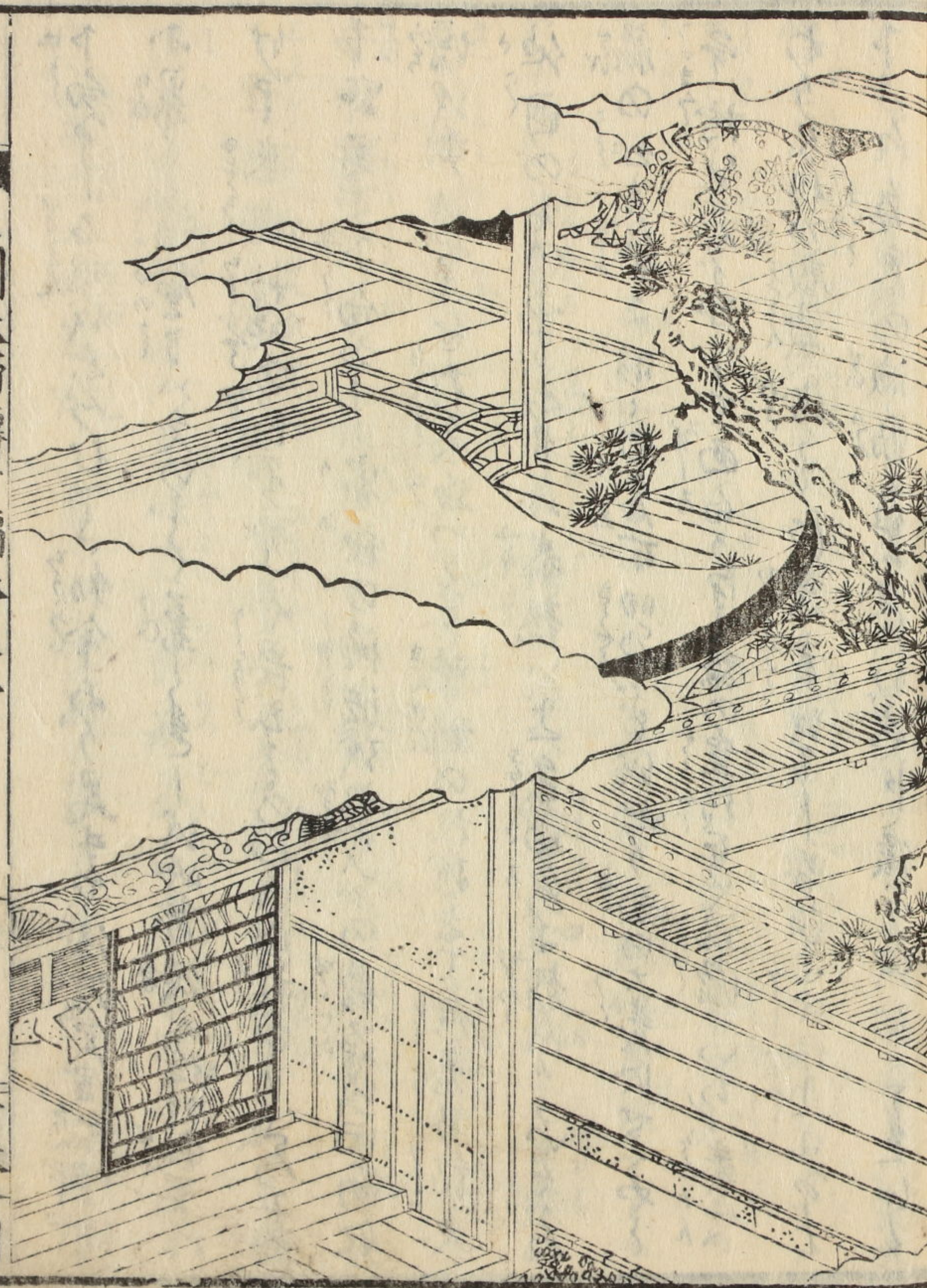




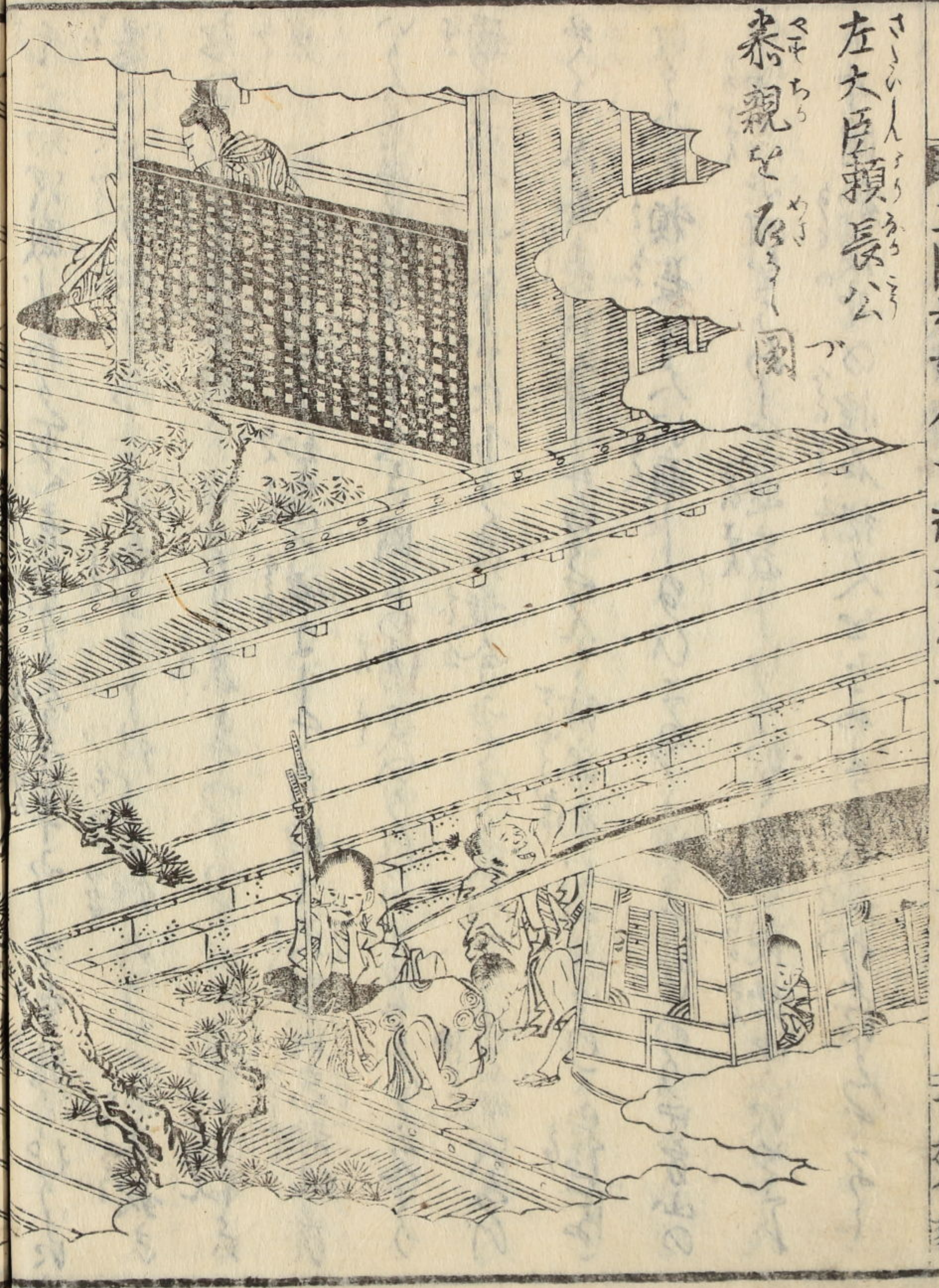
十九年以保延三年二月女帝純上後命廣常小勅宣りつて  
 下野正形順中に退治せしむ令乞乃尾白面の要瓶を害せし  
 石とかり毒氣人と謗ふがをねと建て迎せしむ禁め再び  
 人氏安堵の思ひとせしむに今年に於て石塊まきも障碍を  
 あり國中他國の人まで被害あるものを害して諸人ともあま  
 しむは後日改らねしむるを順中形順八郎宗重より當時乃  
 執政大臣程長と一進進の書とてけ彼家の長尾大常と  
 少補利孝箕中内意改昌行すて足跡を存ね程長とせしむ  
 播戸吉安倍恭親と名をてかふる要事法法ひとせしむが  
 修治しありしむん叶へし後先年の此書もくわく修治しむ

そ大切感一ありしむと今老年よりそ書勝もむりしむ  
 遠い若方家一入ま下も扱ありしむ修治しむ作ありしむ  
 たて後命謹めてありしむりす東年つりて七十三年の  
 身跡がくろしむれも修治しむ健よりそ片時も天國氏志部は  
 いんを尊びしむしむる國去の為民のうれいせのぞくんとえより  
 彌ふ下之勅命とれしむる唯今ありしむ教命ありしむ石塊  
 免くし安撫ありしむのせんと誠忠面にわくられてしむ  
 けふも頼長と大に感しむしむるしむるしむるしむるしむる  
 西物治小四とてしむる退治しむりけりかくて恭親禁中  
 下中國形順中の懐石諸人をらやましの内ありしむるしむる





左大臣頼長公  
来親をばりて

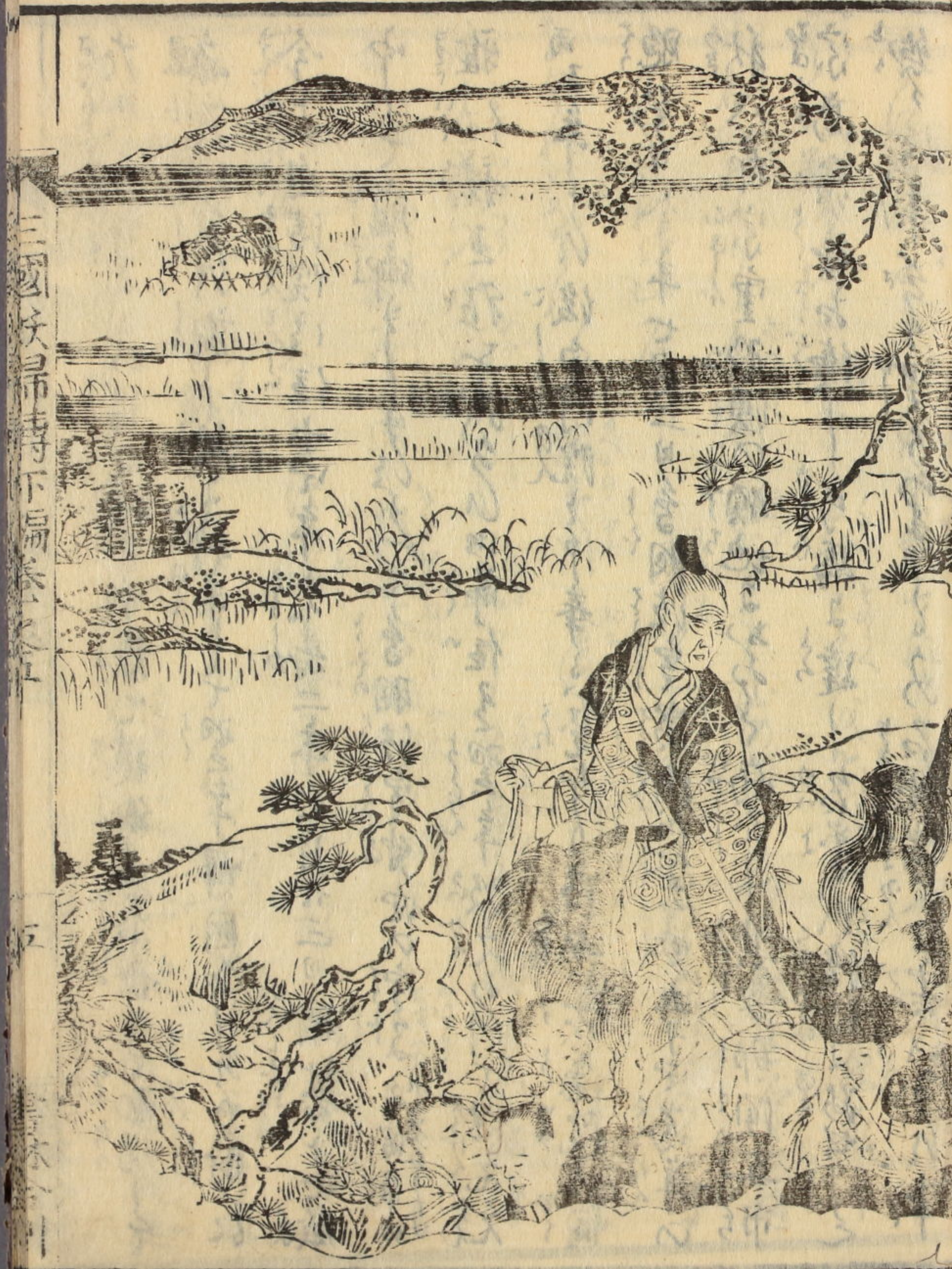




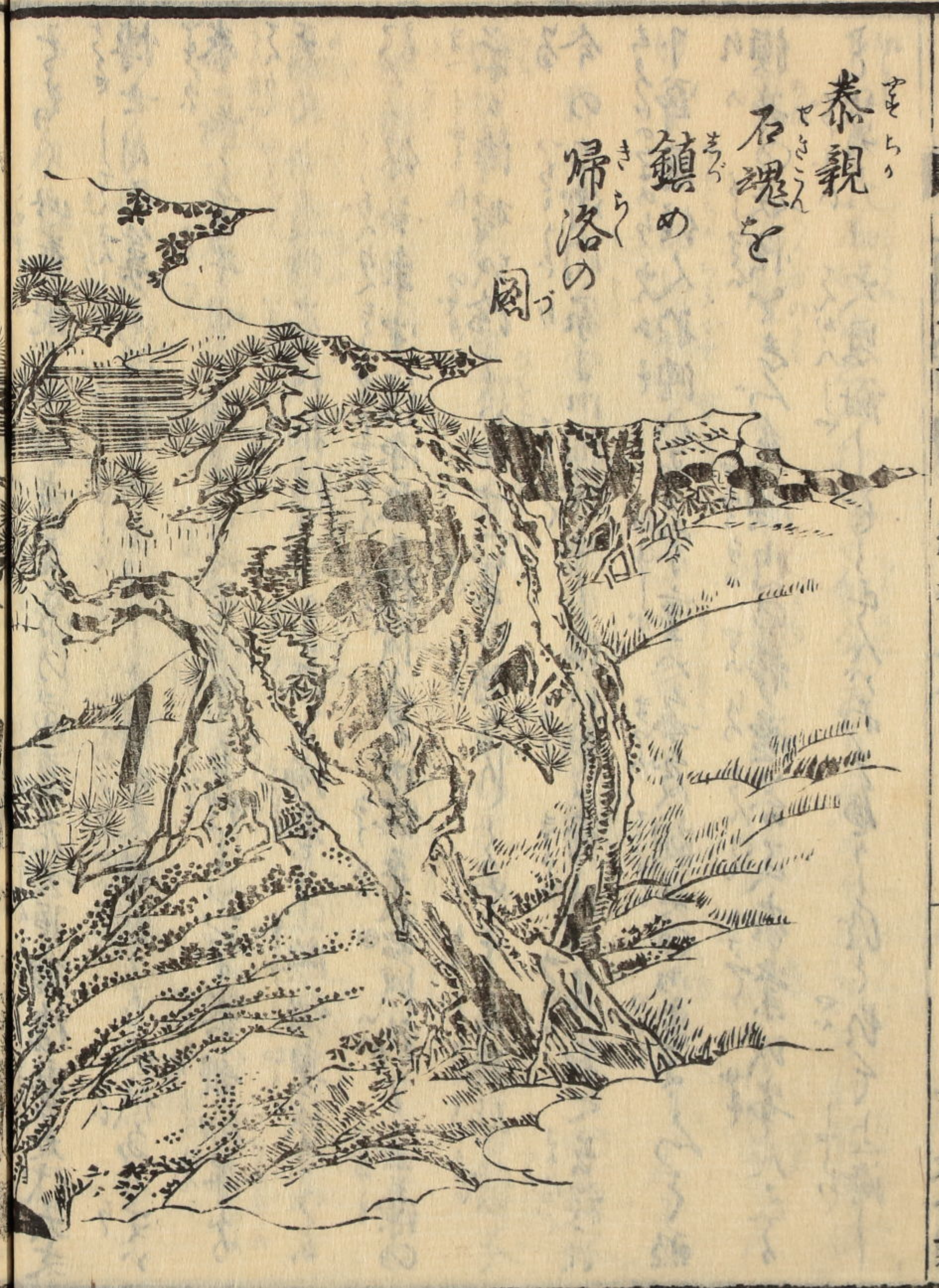
下向の石見氏をむすむ勅命あり是才を位階に位官侍從  
 小累り播磨守にえのどく兼くまゝ一紙此後漢之位に叙せられ  
 けり奉親勅使の詔をかくて畏むるのむく心持ありしを  
 下野國より下向の一家秘の佛法改修しその意石の口面に  
 増成ゆいどせむ又迎づく下禁制の札改りて往來り詠人  
 他國のそのゆもあつめ奉親ハ上系御孫に叙りしをいふに  
 詠の之を傳はすその名を四代とも改り詠の古書にせむやと  
 予枕をみるかして面白くし詠の空行をく海路しやく奉親  
 ありりれば敷感あはれむ思賞改りしをいふに位上はあり  
 下され毎度の誠勤あり名改りし後家改りしをいふに

そとく此奉親もりの孝元帝の南齋大臣倉橋藤九代天文  
 博士司天算術の長從五位下大膳大夫晴明より六代あり父ハ  
 恭長とて早世し祖父の從五位下有行とて奉親初年より  
 天文十道の家代相續しその名を琢磨し顯繼奥改りしをい  
 たり保安年中法涼教は檀越より恒平念改りしをいふに  
 前が障得改除しハ十一歳の時よりとやその子孫松本守に  
 今の古河門家より相續しハ御城に帝代の名家へ去經に  
 下野國任人下向八郎宗重ハ毎夜朝廷の御惠よりしる形  
 頃の妖怪とせん先領内の静燈茶民家業改りしをいふに  
 とも莫大の天恩謝しをいふにあらぬとて改りしをいふに





三國女如伴一糸巻之五



三國女如伴一糸巻之五  
石魂を  
恭親  
鎮め  
帰洛の  
圖

三國女如伴一糸巻之五

五

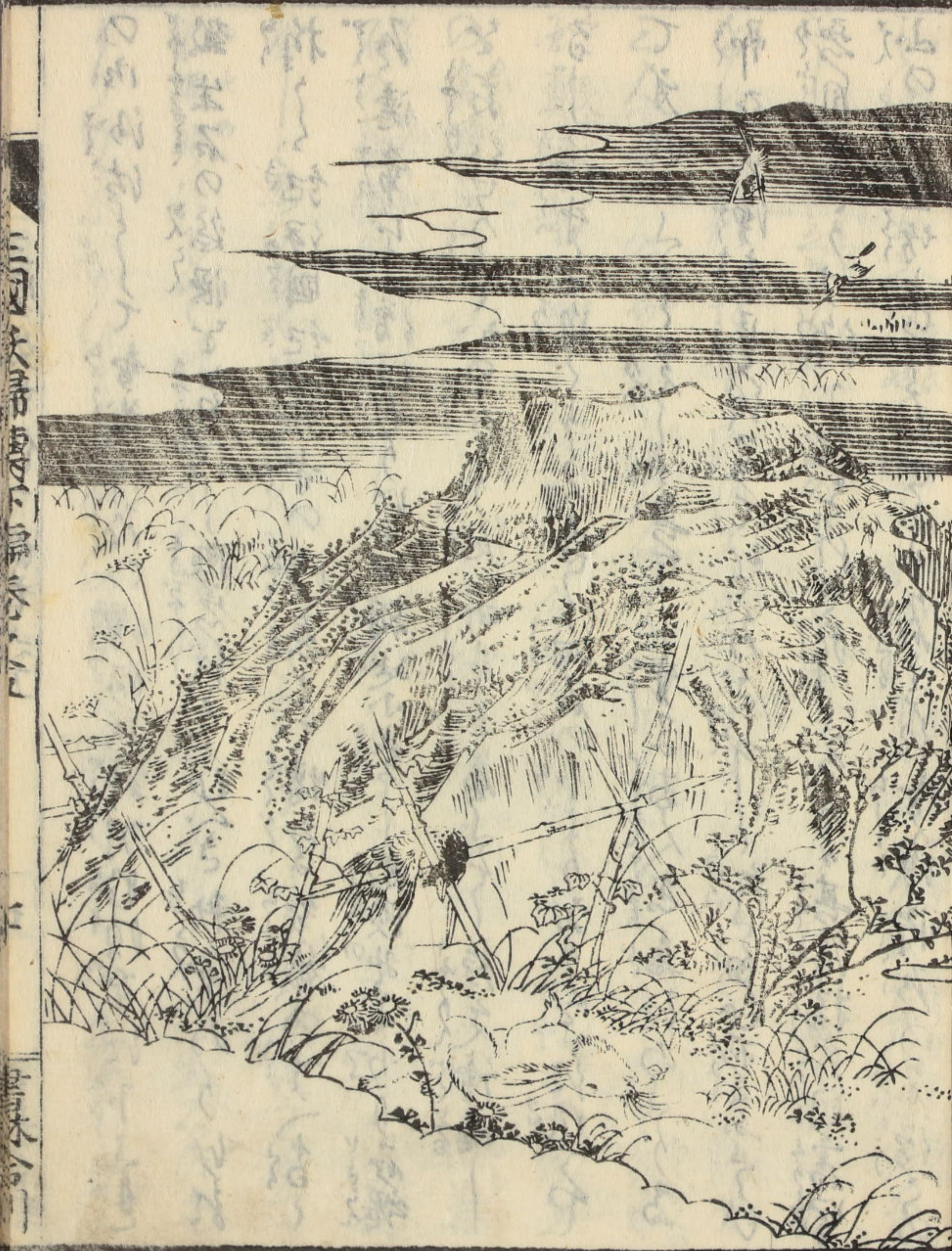
三國女如伴一糸巻之五



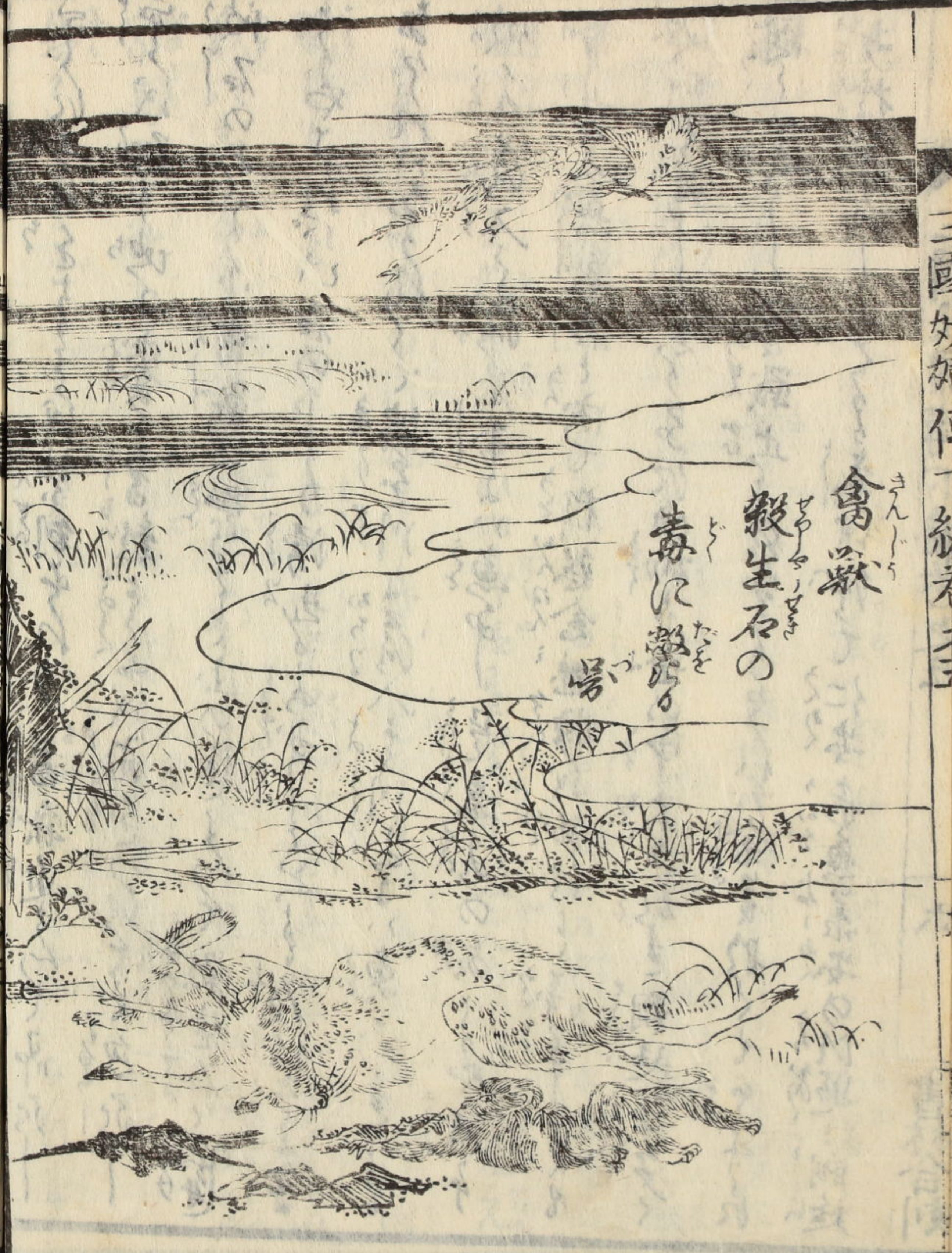
た大石の領するの領は個々一傳て禮謝一恭親も西陽一々  
 毎度の言ひ謝一於一執事して聖年帰國ありり時  
 今と迎請院は位十三年久壽二年七月廿三日御壽十七歳  
 中して崩御まし事ゆつて多羽法皇弟の宮に迎請帝の  
 雅仁親王位を踐多し水部位を聖年改えわけて保元元  
 丙子年より後白河院より奉へ是なり法皇の崇徳院法皇  
 胞たり今年七月二日多羽法皇弟の宮に御壽五十三年の  
 秋八節宗重那須の領地におわく病死一其子那須与市  
 宗高家傳お續一弓馬は達一名譽は後代はせしと  
 物々に年より四つづつはるるの石總諸人は害以りん半

之に此の言をよむと代禁制されども畜養迎らんとて  
 宗氏翔り地は東宮を多敷とて宗氏をつれても忽死  
 彼石のわたり小會敷の地を山のはらへて殺生石を  
 ともやせれば石のとりり湧出のありとともはるるを  
 かくればあざれして鵜を川に落し入る川とて其の  
 彼多る入る流り一といふ事一是毒のありや誠子  
 希有の悪獣石と成て程怨念魅怪は妙はとよし  
 又あそび一ありあには初も世の中大に是朝廷事多く  
 國に安し一合戦止るはあうりりれは余を形くも  
 亦於をうれしごとくは年頃して仁安赤龜恙安の以過し朝廷





三國女代一巻之三



禽獸  
殺生石の  
毒に  
号

三國女代一巻之三



の水沙汰して智識快乃の僧侶既別形源をに下しき  
 教生石の怨恨を著し一推し返さむべき勅命ありけれ  
 折々紀伊國紀三井寺の浄庵として博學多識の才高く  
 乃徳帝に侍僧侶ありけりか朝廷小参り形源中より石魂  
 を教にせんとかの存り凡二所斗も毎ごとく短文集痛一  
 かごとく浄庵は迎くようなせし時石のトよりあまを吹風を  
 て牙にわくくくそんが異せし中子あ人忽毒にわくくあ  
 即死し浄庵は是れ死んでおろさかしくかむいあふふ  
 悪風ふきつけ浄庵はたされて死しとるまら其後揚子國書寫  
 山の空坊とてつとせふもりあまを教快乃の名僧に  
 して浄庵つとて朝廷に参り形源にりり教生石は道化淨然か  
 ごとくめんくまきりに石のトより毒風おろりあれあれとり  
 あれがあれとなまりけり空英中子あ人唯たをよけて浄中  
 三人中中のあまを消うせりり又その後ろかよ年終て流和  
 玉真静寺の僧に乃基阿舍利とて乃徳にられ皆子房少  
 の名僧これ又かよしやう参けを浄く形源はありのあは毒  
 石の怨恨を解脱せし其後毒の害はらめ會教の罪を赦  
 せしと思ひ立て中子口人と引けき教上のぼり許容けうあて  
 形源中はしつて浄中あ人浄經あまらけりく教生石の心を  
 うりけりふあひしもろく石のあまらけり風を吹きありそ身は

の水沙汰して智識快乃の僧侶既別形源をに下しき  
 教生石の怨恨を著し一推し返さむべき勅命ありけれ  
 折々紀伊國紀三井寺の浄庵として博學多識の才高く  
 乃徳帝に侍僧侶ありけりか朝廷小参り形源中より石魂  
 を教にせんとかの存り凡二所斗も毎ごとく短文集痛一  
 かごとく浄庵は迎くようなせし時石のトよりあまを吹風を  
 て牙にわくくくそんが異せし中子あ人忽毒にわくくあ  
 即死し浄庵は是れ死んでおろさかしくかむいあふふ  
 悪風ふきつけ浄庵はたされて死しとるまら其後揚子國書寫  
 山の空坊とてつとせふもりあまを教快乃の名僧に  
 して浄庵つとて朝廷に参り形源にりり教生石は道化淨然か  
 ごとくめんくまきりに石のトより毒風おろりあれあれとり  
 あれがあれとなまりけり空英中子あ人唯たをよけて浄中  
 三人中中のあまを消うせりり又その後ろかよ年終て流和  
 玉真静寺の僧に乃基阿舍利とて乃徳にられ皆子房少  
 の名僧これ又かよしやう参けを浄く形源はありのあは毒  
 石の怨恨を解脱せし其後毒の害はらめ會教の罪を赦  
 せしと思ひ立て中子口人と引けき教上のぼり許容けうあて  
 形源中はしつて浄中あ人浄經あまらけりく教生石の心を  
 うりけりふあひしもろく石のあまらけり風を吹きありそ身は





敬  
 わる園  
 敬生石  
 教化の  
 僧侶



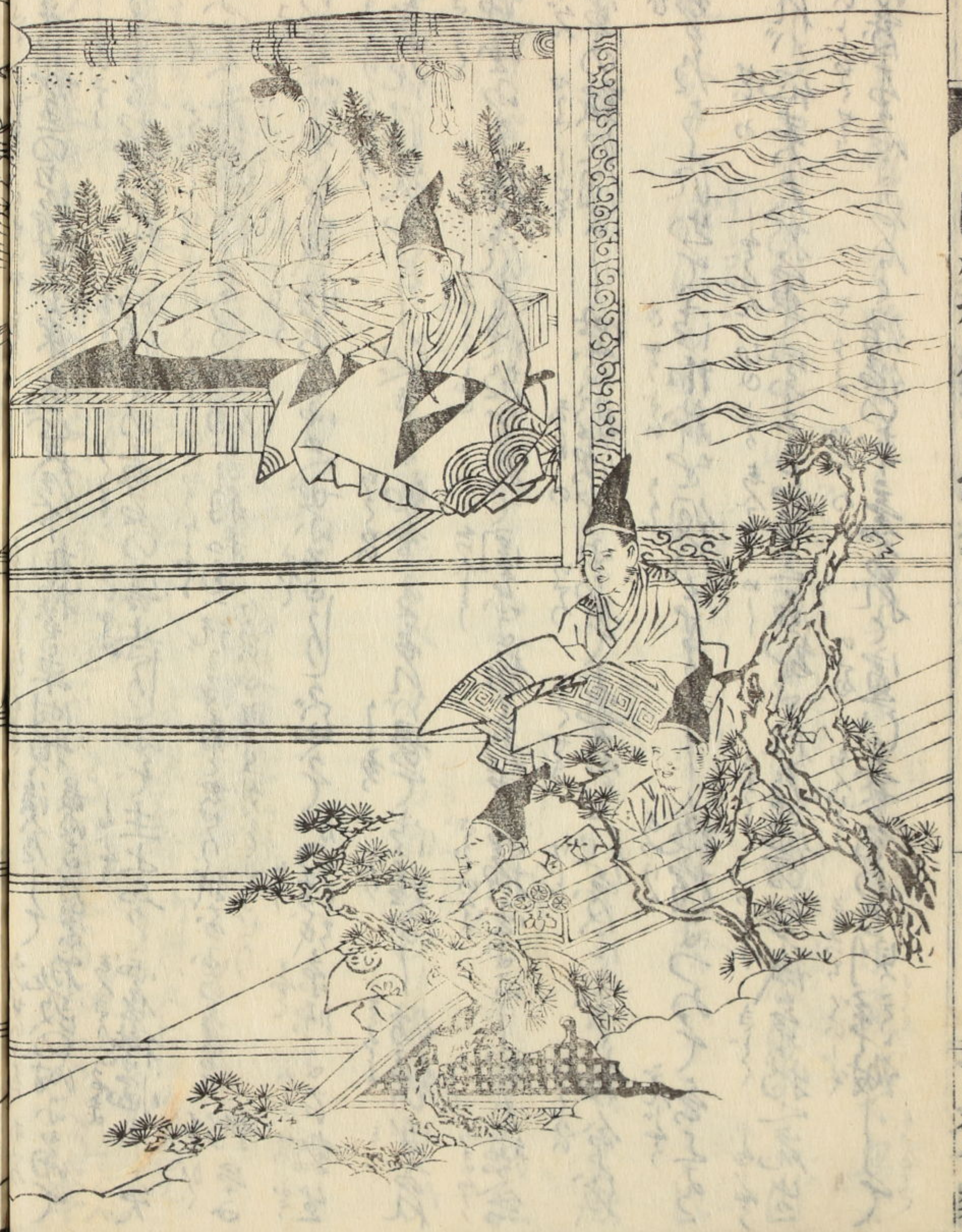
わくわくと云々く昨世もくく昨世も毒身小通して忽ち  
 死しりるもさるに云々此は毒殺生の毒を殺れし志は  
 めんとおの僧侶もわくく教十年の星相を經りりるに  
 今ハ世の人何れもて知りしる禁制のれなしても迫る者  
 とわくさねばあわすらなりしとも會歎せし中々あは  
 命以てしりしる毒身も知るる石而答ひしと應ひ  
 也一相もさるにありしるなり

玄翁殺生石教仁問答并玄翁神社勧請

春去夏来の年去来改て人五人代後深源院内傳文に後深源院  
 の信長建長年中時の折改に追清兼遠も武おの謙念の信夫大將軍

宗親の親王の御母少宗氏に及下相探者平時頼後入して  
 石に毒殺生の毒を殺れし志はめんとおの僧侶もわくく  
 命以てしりしる毒身も知るる石而答ひしと應ひ  
 也一相もさるにありしるなり





げんおし  
 去將和尚  
 鑑倉將軍弟に  
 見糸の



後念を立出ず子一僕も具是只一人綿服を麻布の二衣法匠有拂子  
を撈たよ志珠とつまづり糸懸け杖歩の旅より下時國はたどりつき  
那須地にきてかの殺せ石の幸より種文續禰志あぐり迎づきそのまほ  
石の下なる古物くとじ七が忽姑風烈く吹來て一歩もあむむに  
身を撈よとむけ拂子を打あり風をわけ大業妙典なるりぬみゆ  
をづきりれば不思議や思せし衣服衣もずづり小出刻破れ  
きりて荒和布のまじりけまじり身も毒わ  
ざりし難く石の側より種文續禰一かりて種その  
一切の生悉有佛性の来と説ゆ草本國去意皆成佛とも  
まぶ本石公ありととも元素佛体具足せり了んや大業

妙典の功力よりいべ成佛いざむいありいぞ石をにむい我今  
汝は一向汝示さん

噫 石靈石靈 執魂無所歸

魔則有法濟 即今汝念底

魔風吹くくおあり薫やとてぐ何ふやとるかの大石あり  
撈ゆる人て其精念然して二八ありの女性現ま生續禰  
錦繡の又つ巻る織の袴丈なる思繋りしとく檜扇を手に  
たづてくまきとるらるる月ひ朝廷めて玉簪帯とせれ何の樂も  
誠は天降きたる天人もかきとらるる言も言も言も言も一目に  
又し知るる電致たといゆる悟乃の名傳ありとも公まとい



あまのつとあまのつと... 尚ち知織正光の頑徳いんを... 教生石善氏解さるる... かんを悪業以積で百千劫の苦... 此れ女が... なるに舌前唱一唱... 煩悩即菩提善が... 再び一向派亦人諦徳... 人畜悉皆宇宙塵 端的 不逢劫外春 本来面目有何處 無位心印磨不磷

かまけ何合掌して我今... ありんとして... ころつとむ... 陰... て... 后姐已と... う... 周の... の... 多羽院の玉... 天竺... 周室... 内... 玉... 恭親... 呪術... 傳...





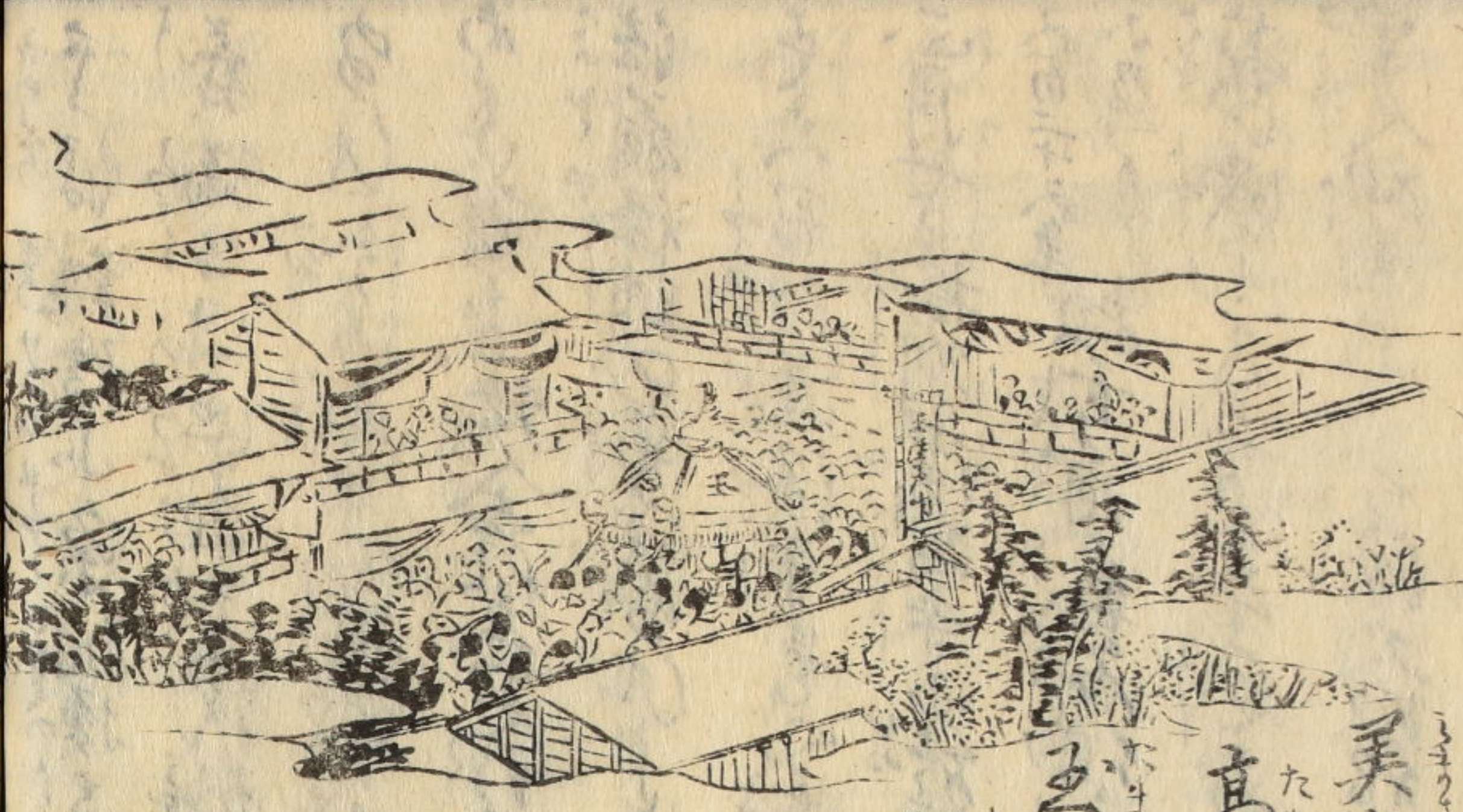
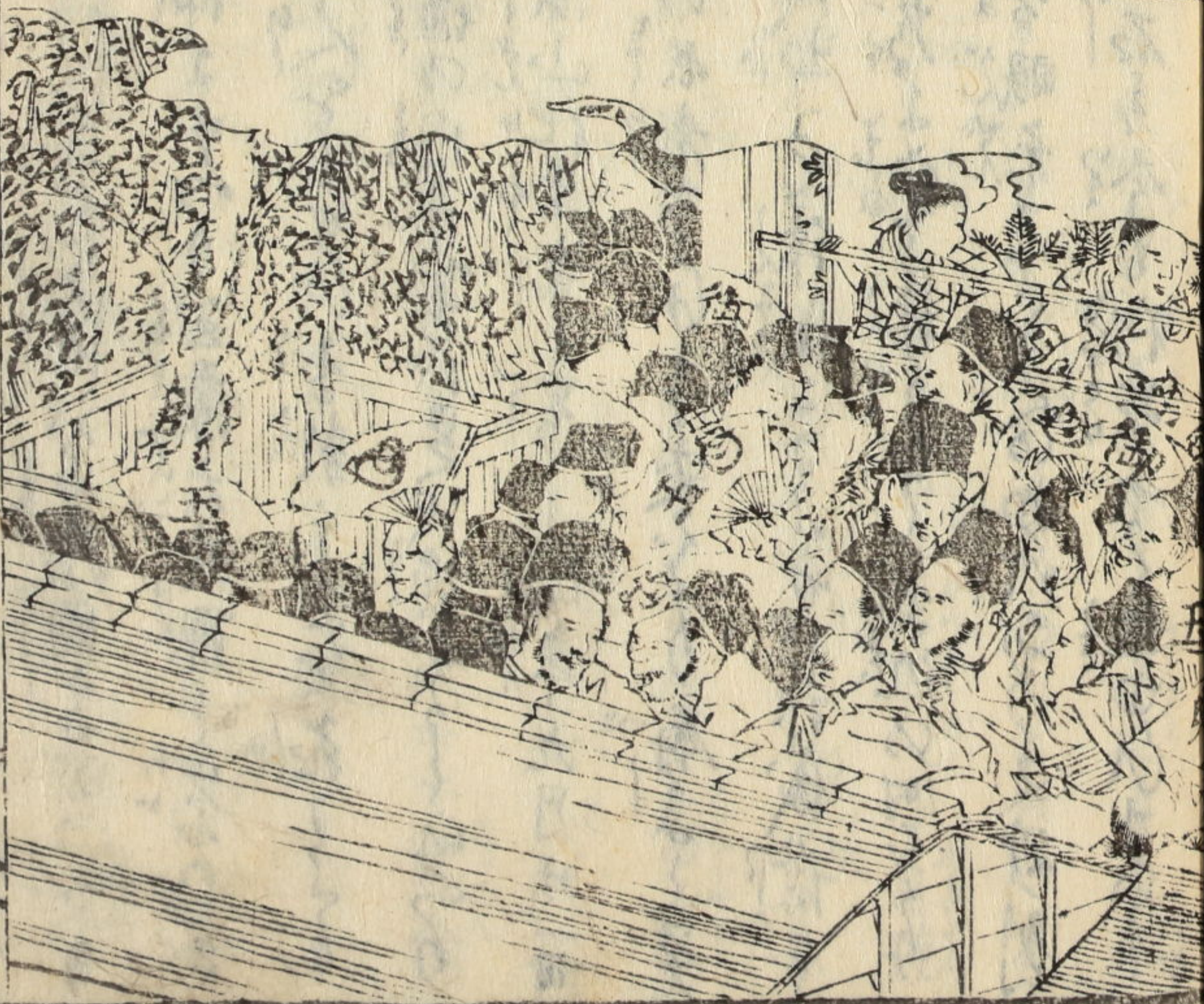
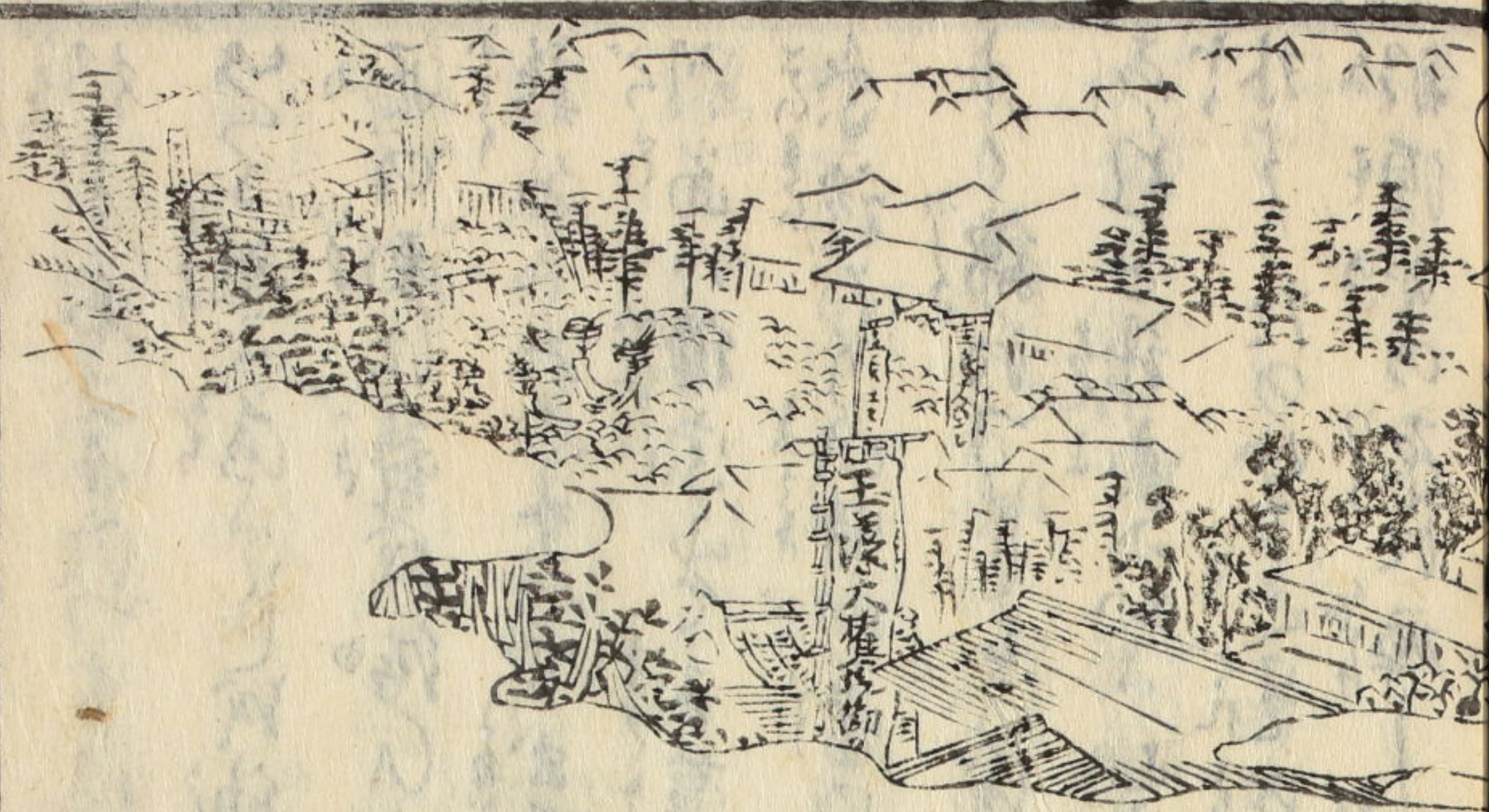
云翁  
右鏡を  
化度  
子  
國



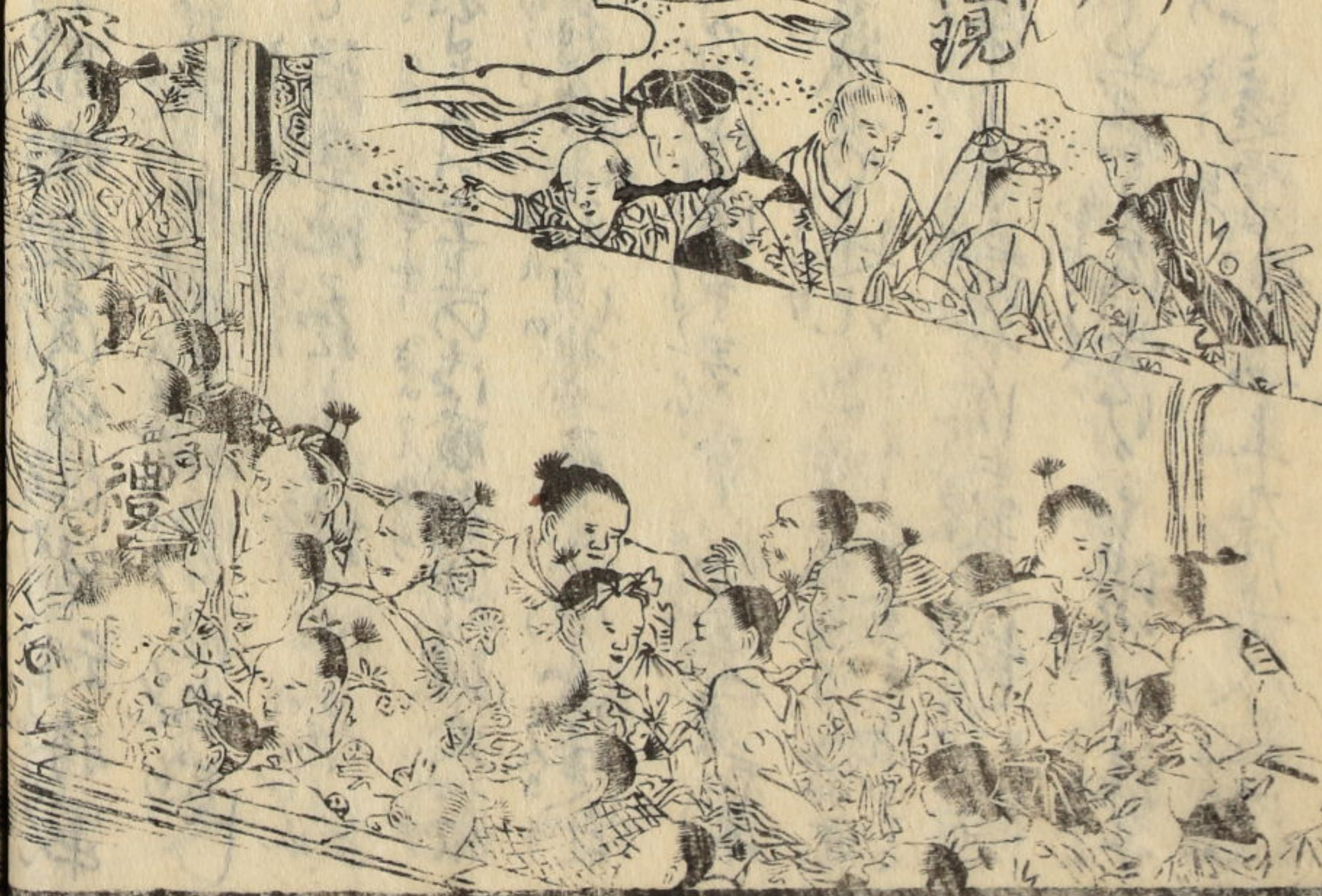
中に隠れし三浦舟上徳女が先は命をたもてしむる  
 怨魂いんも消せん毒をいりて人民を歎と害し又も四  
 得バ日本國も傾んと兼早稲相修葺の穢廻は浮ぶまじ大悪  
 念轉阿に解脱よとの結しとていふも思ひ女性乃染る  
 煙のよく消さるりり舌霜も急珠成りわけ阿轉多羅三  
 蘇三菩提石精あり水は青あり風を大虚よつる唱し叱  
 して教生石成りりとおていふも思ひ草中しる大石二つ  
 りま一糸の白氣之のほり碎し石の細なる成る西のそい  
 砂清も是つびたるいさけり舌霜も碎け成る石成りり  
 地は菩薩のそ像成り深倉にたつとて来て成れしが

義満公は地盤を以てのゆせ神樂園志如堂に安置し  
 めい今小ありて將軍地盤も徳倉地盤も稱し  
 わいありて諸人あるを以て玄翁教より主上の法威斜中は大寂  
 法翁禪師の号成ありしとてや玄翁終り形湊かある一宇成建之  
 氏大寂院と漢寺是に後人五九代後宇多帝弘安乙庚辰年  
 正月七日松洲護國寺山終て七十余歳少く遷化を  
 又百二十八年 叔玄將毒石仁彦の阿中よりまのかり氣の長門國  
 萩の城中より七重斗ありありとて糸を差歩けり地所は後年  
 里人神といひ玉藻大御神と稱し社を遠く宮の毎奉九月廿八日奉祀





美作國  
高田の庄  
五藻大権現  
祭決  
の國





行きよき又幸たつまにけ石の荒造の弟佐田の田の  
 比る知よ落りり神はまつり玉藻大権現と岩の宮  
 居の面に鏡成結ひ人をもをびを教ふとを死し  
 鶴あどあやまつて出垣の内よ入まば足城損ぞり  
 別苗の禪宗少く玉藻山化生寺と号し一例年九月廿一日  
 糸袴ありけ時別當の長老きけきまをり厨子と見  
 錦につじその代中て神儀よりそむ神儀傳  
 あれと神奥小おとむあま定る神をく糸袴の河むり  
 外よりたのむと是は皆眼系なる人のおぼあり又妙別  
 船頭中の系に輝し石も今も程苔ふく垣ゆいす  
 人氏の害うととも農夫牧童彼石の趣く小行てり石

上をとりり風よあつてたる公地慍うとありとをばし  
 妖毒の害あり一残毒今よなとると是又其里人乃直徳  
 たり又今の世に石上の石を穿つ流石よ玉藻の石を  
 かてた石破輝く縁よ号けしりをくあるく番通の  
 用もあまも此石あつて也去りても玉藻和尚摩大の法徳  
 によつてかゝる石魂の怨念を解脱せしめ後代まで諸人の  
 愁を除きあまの毒石をりて利益ある神社となり  
 希代未聞の傳記は書圖に交て婦女子の耳目に愈也  
 貴賤美色に公城傷とものゝ家成りしあひ身と亡と



古村のまにわに今来の美人たると其性妖狐の愛を以  
 わらびも男子昏迷せし竹が妖狐のわらびとせんを濫  
 うて少く脩身家家の端もわらびの妖怪の性も答る事  
 中にもわらびもと仰辨して筆紙をわらび



繪本三國妖婦傳下編卷之五大尾



